



酒資料室展示

Sake Reference Room Chronicles of Sake Containers

お酒の容器 年刊代記

酒蔵でつくられた清酒を消費者のもとへ届けるために、江戸時代から現代まで容器にも様々な工夫がされてきました。
江戸時代には、杉材を利用した樽が清酒を運ぶ役割を担いました。明治に入っても樽の時代はしばらく続きましたが、次第に瓶詰め清酒に変わります。戦後には、ワンカップのような画期的な瓶形の開発やアルミ缶・紙容器・ペットボトルのように新たな素材の活用も行われました。
昭和後期頃からは、環境問題の意識も容器に大きな影響を与えています。本展示では、時代の流れとともに移り変わる、お酒の容器の歴史をご紹介します。



画像提供：大関株式会社・沢の鶴株式会社・中国醸造株式会社・白鶴酒造株式会社

主催＝公益財団法人白鹿記念酒造博物館

Exhibit descriptions are also available in English.

令和2年 令和3年 令和3年
12/9(水)～1/17(日)・1/30(土)～3/7(日)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催期間や内容が変更になる場合があります。詳しくは当館HPでご確認ください。

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：火曜日／但し2月23日（火・祝）は開館、2月24日（水）は休館・12月29日（火）～1月3日（日）



「伊丹諸日」と灘の生二本」
下り酒が生んだ銘醸地、
伊丹と灘五郷」が、
令和二年度の日本遺産に
認定されました。

明治の酒蔵 酒ミュージアム [公益財団法人 白鹿記念酒造博物館]
Hakushika Memorial Museum of Sake
〒662-0926 兵庫県西宮市鞍掛町8-21
TEL.(0798)-33-0008(代) FAX.(0798)-32-2790

